

注3

大学番号：私269

[平成26年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

立命館大学大学院 薬学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 立命館
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 薬学部事務室

職名・氏名 ジムチョウ 事務長 タカミザワ 高見澤 アツシ 篤

電話番号 077-561-2563

（夜間） 077-561-2563

F A X 077-561-2564

e-mail mlst-ri-kai2@ml.ritsume.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

薬学研究科

＜薬学専攻 博士課程＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4. 既設大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	20

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 立命館

(2) 大学名 立命館大学

(3) 大学の位置

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1丁目1番1号

(〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京東栞尾町8番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナガタ トヨオミ) 長田 豊臣 (平成19年2月)		
学長	(カワグチ キヨフミ) 川口 清史 (平成23年1月)	(ヨシダ ミキオ) 吉田 美喜夫 (平成27年1月)	任期満了のため変更、平成27年1月1日(27)
研究科長	(イマムラ ノブタカ) 今村 信孝(予定者) (平成25年10月)	(イマムラ ノブタカ) 今村 信孝 (平成26年4月)	認可時は予定者とし、平成26年4月に選出したため(26)
副学部長		(アサノ シンジ) 浅野 真司 (平成28年4月)	選任のため変更(28)
		(イナヅ テツヤ) 稲津 哲也 (平成26年4月)	認可以降、平成26年4月に選出したため(26)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の博士後期課程の場合(平成28年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	4年	3人	12人	基礎となる学部等 薬学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	3人 (-) [-]		3人 (-) [-]		3人 (-) [-]				1.21倍	
志願者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]				
受験者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]				
合格者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]				
B 入学者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (2) [-]	- (-) [-]	4 (1) [-]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	0.66		1.66		1.33					

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入して
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 2	[-] (-) -	[-] (-) 5	[-] (-) -	[-] (-) 4	[-] (-) -	[]	[]	
2年次	/		[-] (0) 2	[-] (-) -	[-] (1) 6	[-] (-) -	[]	[]	
3年次	/		/		[-] (0) 1	[-] (-) -	[]	[]	
計	[-] (-) 2	[-] (-) -	[-] (0) 7	[-] (-) -	[-] (1) 11	[-] (-) -	[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入して
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入してください。**該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	2人	0人	平成26年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	0.0%
			平成27年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	
			平成28年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	5人	0人	平成27年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	0.0%
			平成28年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	4人	0人	平成28年度	0人	0人	退学者0名のため、該当なし	0.0%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	人	平成29年度	人	人		%
合計	11人	0人					0.0%

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<薬学研究科 薬学専攻 博士課程>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	医療薬学分野科目	医療情報分析学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし)
		医薬品安全評価学特論	1・2・3・4前	2			1	1				隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし)
		創剤学特論	1・2・3・4後	2			1					隔年開講 (27年度開講なし)
		病原微生物学・感染症学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講 (27年度開講なし)
		分子生物薬剤学特論	1・2・3・4後	2			3					隔年開講 (27年度開講なし)
		臨床治療学特論	1・2・3・4前	2			1					隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし)
		高度薬剤師養成演習 1	未開講 1・2・3・4通	3				1				履修希望者がいなかったため未開講 (28)
		高度薬剤師養成演習 2	未開講 1・2・3・4通	3				1				履修希望者がいなかったため未開講 (28)
	高度薬剤師養成演習 3	未開講 1・2・3・4通	3				1					履修希望者がいなかったため未開講 (28) 履修希望者がいなかったため未開講 (27)
		細胞工学特論	1・2・3・4前	2			3					隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし)
	病態生理解析分野科目	上皮バリアと輸送特論	1・2・3・4後	2			1					隔年開講 (27年度開講なし)
		生活習慣病特論	1・2・3・4前	2			2	1				隔年開講 (27年度開講なし)
		天然薬物学特論	1・2・3・4前	2			2	1				隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし) 教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文 (准教授)
		副作用学特論	1・2・3・4後	2			2	1				兼1 教員を追加する旨の留意事項により教員を補充 (26) 平成26年6月教員審査により判定が可となったため、兼任教員から専任教員へ担当者変更 (27) 担当：豊田 英尚 (教授)
	分子病態学特論	1・2・3・4前	2			3					隔年開講 (27年度開講なし) 隔年開講 (28年度開講なし) 隔年開講 (26年度開講なし)	
特別研究科目	薬学特別研究1	1通	4			15	5				教育課程の充実を図るため担当者増 (28) 担当：北村 佳久(教授)、井之上 浩一(准教授)、金兒(河野) 貴子(准教授) 平成27年6月 教員審査済 判定：可	
						14	3 2				教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文 (准教授)	
	薬学特別研究2	2通	4			15	5				教育課程の充実を図るため担当者増 (28) 担当：北村 佳久(教授)、井之上 浩一(准教授)、金兒(河野) 貴子(准教授) 平成27年6月 教員審査済 判定：可	
						14	3 2				教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文 (准教授)	
薬学特別研究3	3通	4			15	5				教育課程の充実を図るため担当者増 (28) 担当：北村 佳久(教授)、井之上 浩一(准教授)、金兒(河野) 貴子(准教授) 平成27年6月 教員審査済 判定：可		
					14	3 2				教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文 (准教授)		
薬学特別研究4	未開講 3・4通	4				15	5			教育課程の充実を図るため担当者増 (28) 担当：北村 佳久(教授)、井之上 浩一(准教授)、金兒(河野) 貴子(准教授) 平成27年6月 教員審査済 判定：可 履修希望者がいなかったため未開講 (28)		
						14	3 2				教育課程の充実を図るため担当者増 (27) 担当：土肥 寿文 (准教授)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
0科目	19科目	0科目	19科目	0科目	19科目	0科目	19科目	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-
2	該当なし	-	-	-	-	-
3	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-
2	該当なし	-	-	-	-	-
3	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当科目無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	920,840.79㎡ 914,530.65㎡ 820,593.14㎡	0㎡	0㎡	920,840.79㎡ 914,530.65㎡ 820,593.14㎡	大阪いばらきキャンパス 地積更正による面積増 6,790.14㎡増(28) 究論館 2,441.65㎡増 大阪いばらきキャンパス (OIC) 91,495.86㎡増 (27)		
	運動場用地	93,310.74㎡ 84,238.74㎡	0㎡	0㎡	93,310.74㎡ 84,238.74㎡	OICフィールド 9,072㎡増 (27)		
	小 計	1,014,151.53㎡ 1,007,841.39㎡ 904,831.88㎡	0㎡	0㎡	1,014,151.53㎡ 1,007,841.39㎡ 904,831.88㎡			
	そ の 他	389,585.86㎡ 389,264.23㎡ 476,719.26㎡ 473,813.26㎡	0㎡	0㎡	389,585.86㎡ 389,264.23㎡ 476,719.26㎡ 473,813.26㎡	衣笠キャンパス隣接地 321.63㎡増(28) 旧西川邸 325.88㎡増 位置指定道路229.55㎡ 増、その他からOIC分を 校舎敷地および運動場用 地へ(27)		
	合 計	1,403,737.39㎡ 1,397,105.62㎡ 1,381,551.14㎡ 1,378,645.14㎡	0㎡	0㎡	1,403,737.39㎡ 1,397,105.62㎡ 1,381,551.14㎡ 1,378,645.14㎡	旧聖マリア修道院用地をそ の他へ3,386㎡増。(26)		
(2) 校 舎	専 用	534,329.59㎡ 519,744.38㎡ 402,184.48㎡ 402,147.80㎡	0㎡	0㎡	534,329.59㎡ 519,744.38㎡ 402,184.48㎡ 402,147.80㎡	平井嘉一郎記念図書館 14,585.21㎡増(28) 究論館3,693.85㎡増 トリツ 6,578.60㎡増 バ イリンク9,803.15㎡増 危険物倉庫 98.82㎡増 OIC 97,385.48㎡増(27) 朱雀防災倉庫13.88㎡ 増、衣笠西門受付8.92㎡ 増BKC防災倉庫13.88㎡ 増。(26)		
	(402,147.80㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(402,147.80㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	122室 95室	演 習 室 515室 513室 411室 413室	実験実習室 768室 791室 688室 689室	情報処理学習施設 41室 40室 32室	語学学習施設 29室	大学全体 教室： イストウイング、ウエストウイング、 サイエンス7、クリエーション7の改 修工事に伴い演習室増、 実験実習室減、情報処理 学習施設増(28) 究論館、トリツ、バ イリン ク、OIC建設による増(27) 衣笠第一体育館取壊しに よる教室減、創思館の部 屋改修による実験実習室 の減。(26) 職員： 従事職員数の変更による もの。(28) 従事職員数の変更による もの。(27) 従事職員数の変更による もの。(26)	
	補 助 職 員	12人 補助職員—5人 補助職員—31人 (補助職員—147人)	58人 補助職員—46人 補助職員—48人 (補助職員—53人)					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室 数			平成28年4月 専任教員を新規 採用のため(28)			
	薬学研究科 薬学専攻	21 18 17	室		平成27年4月 専任准教授1名を新規 採用のため(27)			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	薬学部と共用
	薬学研究科	20,099 [2,894] 19,430 [2,865]	6,281 [6,136]	6,148 [6,026]	497	1,389	182	図書・雑誌・視聴覚資料 の増加分は新規購入による。 電子ジャーナルの減少分は 契約タイトル数の変更による。 (28)
		20,099 [2,894] 19,431 [2,865] (19,430 [2,865])	6,126 [6,024] (6,281 [6,136])	6,114 [6,023] (6,148 [6,026])	(497)	(1,389)	(182)	図書の増加分は新規購入 分。(26)
	計	20,099 [2,894] 19,430 [2,865]	6,281 [6,136]	6,148 [6,026]	497	1,389	182	
	20,099 [2,894] 19,431 [2,865] (19,430 [2,865])	6,126 [6,024] (6,281 [6,136])	6,114 [6,023] (6,148 [6,026])	(497)	(1,389)	(182)		

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
	44,148.91㎡ 38,093.64㎡ 29,616㎡		5,443席 5,330席 4,220席		4,459,000冊 3,871,844冊 3,188,083冊 3,186,194冊		図書館移転にともなう増床等。(28) 新キャンパス図書館開設。(27) 書架増加に伴う収容冊数変更。(26)	
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	22,961.61㎡ 15,120.14㎡ 21,201.87㎡		棒野室内練習場 鉄骨造鋼板葺平屋建 2,025㎡				OIC 7,841.47㎡増(27) 衣笠第一体育館取壊し 4,754.15㎡減。 衣笠第二体育館一部取壊し 1,327.58㎡減。(26)	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は理工学研究所の経費を記載している。図書購入費には、電子ジャーナル・データベース等を含む。 決算の確定による(28)
		教員1人当り研究費等	2,619千円 2,586千円	2,611千円	図書購入費	0千円	125千円 108千円	
	共同研究費等	14,670千円 18,345千円	18,622千円	設備購入費	0千円	439千円 192千円	783千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		800千円	500千円	500千円	500千円	一千円	一千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	立命館大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部 法学科	4	790	—	3,160	学士（法学）	1.12	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
経済学部 経済学科	4	535	—	2,140	学士（経済学）	1.07	昭和23年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
国際経済学科	4	200	—	800	学士（経済学）	1.11	平成18年度	同上	
経営学部 経営学科	4	610	—	2,440	学士（経営学）	1.09	昭和37年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
国際経営学科	4	150	—	600	学士（経営学）	1.13	平成18年度	同上	
産業社会学部 現代社会学科	4	900	—	3,600	学士（社会学）	1.05	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
現代社会専攻	4	840	—	3,360	学士（社会学）	1.05	平成19年度	同上	
メディア社会専攻	4						平成19年度	同上	
スポーツ社会専攻	4						平成19年度	同上	
人間福祉専攻	4						平成19年度	同上	
子ども社会専攻	4						平成19年度	同上	
文学部 人文学科	4	905	—	4,220	学士（文学）	1.08	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	平成28年度入学定員減（△200人）
理工学部 電気電子工学科	4	142	3年次12	592	学士（工学）	1.07	昭和24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成24年度より学生募集停止
機械工学科	4	160	3年次10	660	学士（工学）	1.05	昭和24年度	同上	
都市システム工学科	4	84	3年次2	340	学士（工学）	1.10	平成16年度	同上	
環境システム工学科	4	69	3年次2	280	学士（工学）	1.10	平成6年度	同上	
電子光情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度	同上	
ロボティクス学科	4	83	3年次6	344	学士（工学）	1.16	平成8年度	同上	
数理科学科	4	90	—	360	学士（理学）	1.04	平成12年度	同上	
物理科学科	4	80	—	320	学士（理学）	1.07	平成12年度	同上	
電子情報工学科	4	94	3年次8	392	学士（工学）	1.04	平成16年度	同上	
マイクロ機械システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成16年度	同上	
建築都市デザイン学科	4	70	3年次16	312	学士（工学）	1.13	平成16年度	同上	
国際関係学部 国際関係学科	4	305	—	1,220	学士（国際関係学）	1.05	昭和63年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	

政策科学部									
政策科学科	4	360	—	1,440	学士（政策科学）	1.08	平成6年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
情報理工学部									2年次以降に所属学科が確定することから、1年次については定員で按分して定員超過率を算出
情報システム学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
情報コミュニケーション学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
メディア情報学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.04	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
知能情報学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
映像学部									
映像学科	4	150	—	600	学士（映像学）	1.09	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学部									6年制学科 4年制学科
薬学科	6	100	—	600	学士（薬学）	1.04	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
創薬科学科	4	60	—	120	学士（薬科学）	0.83	平成27年度	同上	
生命科学部									
応用化学科	4	80	—	320	学士（理学） 学士（工学）	1.08	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生物工学科	4	80	—	320	学士（工学）	0.98	平成20年度	同上	
生命情報学科	4	60	—	240	学士（理学） 学士（工学）	1.09	平成20年度	同上	
生命医科学科	4	60	—	240	学士（理学）	1.06	平成20年度	同上	
スポーツ健康科学部									
スポーツ健康科学科	4	220	—	880	学士（スポーツ健康科学）	1.06	平成22年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
総合心理学部									
総合心理学科	4	280	—	280	学士（心理学）	1.13	平成28年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
法学研究科									
法学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（法学）	0.26	昭和25年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（法学）	0.20	昭和28年度		
経済学研究科									
経済学専攻									
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士（経済学）	0.53	昭和25年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（経済学）	0.46	昭和39年度		
経営学研究科									
企業経営専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（経営学）	0.47	昭和41年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（経営学）	0.17	昭和41年度		

社会学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
応用社会学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（社会学）	0.39	昭和47年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（社会学）	0.79	昭和49年度		
文学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
人文学専攻									
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士（文学）	0.53	平成18年度		
博士課程後期課程	3	20	—	60	博士（文学）	0.71	平成18年度		
行動文化情報学専攻								同上	
博士課程前期課程	2	35	—	70	修士（文学）	0.48	平成26年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（文学）	0.37	平成26年度		
理工学研究科								滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
基礎理工学専攻									
博士課程前期課程		50	—	100	修士（理学） 修士（工学）	0.75	平成18年度		
博士課程後期課程		6	—	18	博士（理学） 博士（工学）	0.61	平成24年度		
電子システム専攻								同上	
博士課程前期課程		180	—	360	修士（工学）	0.58	平成24年度		
博士課程後期課程		8	—	24	博士（工学）	0.29	平成24年度		
機械システム専攻								同上	
博士課程前期課程		140	—	280	修士（工学）	0.89	平成24年度		
博士課程後期課程		11	—	33	博士（工学）	0.51	平成24年度		
環境都市専攻								同上	
博士課程前期課程		80	—	160	修士（工学）	1.03	平成24年度		
博士課程後期課程		15	—	45	博士（工学）	0.15	平成24年度		
総合理工学専攻								同上	
博士課程後期課程		—	—	—	博士（理学） 博士（工学）	—	平成8年度		平成24年度より学生募集停止
国際関係研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
国際関係学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（国際関係学）	0.54	平成4年度		
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（国際関係学）	0.60	平成6年度		
政策科学研究科								大阪府茨木市岩倉町2番150号	
政策科学専攻									
博士課程前期課程	2	40	—	80	修士（政策科学）	0.68	平成9年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（政策科学）	0.37	平成11年度		
応用人間科学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
応用人間科学専攻									
修士課程	2	60	—	120	修士（人間科学）	0.67	平成13年度		

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（言語教育情報学）	0.71	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
テクノロジーマネジメント研究科 テクノロジーマネジメント専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	70 5	— —	140 15	修士（技術経営） 博士（技術経営）	0.42 1.06	平成17年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
公務研究科 公共政策専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（公共政策）	0.38	平成19年度	京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町8番地	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	25 8	— —	50 24	修士（スポーツ健康科学） 博士（スポーツ健康科学）	0.84 1.28	平成22年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
映像研究科 映像専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（映像）	0.40	平成23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
情報理工学研究科 情報理工学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	200 15	— —	400 45	修士（工学） 博士（工学）	0.68 0.46	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生命科学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	150 15	— —	300 45	修士（理学） 修士（工学） 博士（理学） 博士（工学）	0.81 0.44	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
先端総合学術研究科 先端総合学術専攻 一貫制博士課程	5	30	—	150	博士（学術）	0.23	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	9	博士（薬学）	1.21	平成26年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
法務研究科 法曹養成専攻 専門職学位課程	3	70	—	270	法務博士（専門職）	0.42	平成16年度	京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町8番地	平成28年度入学定員減（△30人）
経営管理研究科 経営管理専攻 専門職学位課程	2	80	—	160	経営修士（専門職）	0.58	平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	

大学の名称	立命館アジア太平洋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は 称 号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	4	600	年次 人 2年次 12 3年次 18	2,472	学士（アジア太 平洋学）	1.02	平成 12年度	大分県別府市十文字原1丁 目1番	
国際経営学部 国際経営学科	4	600	2年次 22 3年次 31	2,528	学士（経営学）	0.96	平成 12年度	大分県別府市十文字原1丁 目1番	
アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻								大分県別府市十文字原1丁 目1番	
博士課程前期課程	2	15	—	30	修士（アジア太 平洋学）	0.43	平成 15年度		
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（アジア太 平洋学）	0.66	平成 15年度		
国際協力政策専攻 博士課程前期課程	2	45	—	90	修士（国際協力 政策）	0.41	平成 15年度	同上	
経営管理研究科 経営管理専攻								大分県別府市十文字原1丁 目1番	
修士課程	2	40	—	80	修士 （経営管理）	0.64	平成 15年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専	教授(研究科長)	今村 信孝 (61)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	浅野 真司 (54)	平成26年4月					隔年開講のため平成27年度は未開講 (27) 隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	一川 暢宏 (56)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	福津 哲也 (56)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	岡野 友信 (60)	平成26年4月					隔年開講のため平成27年度は未開講 (27)
専	教授	桂 敏也 (48)	平成26年4月					隔年開講のため平成27年度は未開講 (27)
専	教授	木村 富紀 (60)	平成26年4月					隔年開講のため平成27年度は未開講 (27) 履修希望者がいなかったため未開講 (27)
専	教授	鈴木 健二 (52)	平成26年4月					隔年開講のため平成27年度は未開講 (27)
専	教授	高田 達之 (53)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	田中 謙 (53)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	谷浦 秀夫 (55)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
専	教授	豊田 英尚 (51)	平成26年4月					隔年開講のため平成28年度は未開講 (28) 隔年開講のため平成26年度は未開講 (26)
								平成26年6月教員審査済 (27) 教員審査判定可により、担当者変更 (27) 隔年開講のため平成27年度は未開講 (27)

専任・兼任・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考	
	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専	教授	服部 尚樹 (56)	平成26年4月	臨床治療学特論【隔年】 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4					隔年開講のため平成28年度は未開講(28) 隔年開講のため平成26年度は未開講(26)	
専	教授	平山 佳伸 (61)	平成26年4月	医薬品安全評価学特論※【隔年】 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4					隔年開講のため平成28年度は未開講(28) 隔年開講のため平成26年度は未開講(26)	
専	教授	藤田(岡) 卓也 (49)	平成26年4月	創剤学特論【隔年】 分子生物薬剤学特論※【隔年】 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4					隔年開講のため平成27年度は未開講(27) 隔年開講のため平成27年度は未開講(27)	
専	准教授	角本 幹夫 (41)	平成26年4月	医薬品安全評価学特論※【隔年】 高度薬剤師養成演習1 高度薬剤師養成演習3 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4					隔年開講のため平成28年度は未開講(28) 隔年開講のため平成26年度は未開講(26) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
専	准教授	藤田 隆司 (41)	平成26年4月	生活習慣病特論※【隔年】 副作用学特論※【隔年】 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4					隔年開講のため平成27年度は未開講(27) 隔年開講のため平成27年度は未開講(27)	
					専	准教授	土肥 寿文 (37)	平成27年4月	天然薬物学特論※ 薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4	平成27年度より着任(27) 平成27年度から教育課程の充実を図るため担当者増(27) 平成26年6月教員審査済(27)
					専	教授	北村 佳久 (55)	平成28年4月	薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4	平成28年度より着任(28) 平成28年度から教育課程の充実を図るため担当者増(28) 平成27年6月A.C教員審査済(28)
					専	准教授	井之上 浩一 (41)	平成28年4月	薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4	平成28年度より着任(28) 平成28年度から教育課程の充実を図るため担当者増(28) 平成27年6月A.C教員審査済(28)
					専	准教授	金見(河野) 貴子 (41)	平成28年4月	薬学特別研究1 薬学特別研究2 薬学特別研究3 薬学特別研究4	平成28年度より着任(28) 平成28年度から教育課程の充実を図るため担当者増(28) 平成27年6月A.C教員審査済(28)
					兼任	講師	川崎 敏博 (72)	平成26年10月	副作用学特論※	平成26年6月教員審査により、専任教員判定可のため、担当者変更(27) 平成26年から教員を追加する旨の留意事項により教員を補充(26)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、 「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに兼任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(A.C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等
 (2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
15	2	0	0	17	16	5	0	0	21	16	5	0	0	21
(15)	(2)	(0)	(0)	(17)						[1]	[3]	[0]	[0]	[4]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
12	4	1			17	3	1			17	3	1		
(12)	(4)	(1)								[5]	[Δ1]	[0]		

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
教授 65 准教授 60 歳	0	0
	名	名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	-	該当無し	必修	-	①	-				
			選択	-	②					
			必修	-	③					
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	-	該当無し	必修	-	①	-				
			選択	-	②					
			必修	-	③					
合計 (C)				後任補充状況の集計 (D)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員**について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の交代がないため、該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (25年10月)	1. 薬学特別研究の授業形態が演習となっているが、シラパスの内容から演習ではなく実験・実習と思われるため、学生に分かる様に実験・実習と区分を改めること。 2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開設時までには教員を充足すること。	留意事項 科目区分を実験・実習と改めるとともに、ガイダンス時に科目の概要についての説明を行った。 (26) 当該科目に対し、兼任教員1名の補充を行った。 (26) 当該科目に対し、専任教員の教員審査が可となったため、兼任教員から専任教員への担当者変更を行った。(27)	
設置計画履行状況 調 査 時 (27年2月)	該当なし	-	-
設置計画履行状況 調 査 時 (28年2月)	該当なし	-	-

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

1. 本学では、学部・研究科に共通する教学に関わる事項について審議を行うための全学的機関として、教学委員会を設置している。教学委員会は、教学部長が主宰し、各学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席し、毎年度の各学部・研究科の教学上の総括および次年度計画を策定・承認している。ここでは、FD活動についても毎年度の方針に基づく総括、次年度計画をまとめている。本学では、FD活動を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。教育の質的向上のために、各学部・研究科においてFD活動を行うとともに、教学部が主催して教学実践フォーラムや懇談会等を実施し取組を共有している。
2. 全学的には教育開発推進機構（以下「機構」という。）を設置し（「立命館大学教育開発推進機構規程」第2条）、その下に教育・学修支援センター（以下「センター」という）を置いて、学部・研究科の取組みを支援している（同第4条）。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 教学委員会は隔週月曜日に実施し、全学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席している。（教学委員会規程）
2. 機構は、日常的運営を行うため、教育・学修支援センター会議（「センター会議」）を置いている（立命館大学教育開発推進機構規程第10条、第12条）。
 構成員は、教育・学修支援センター長（委員長）、教育・学修支援センター副センター長（副センター長）、教学部副部長（事務局長）、高大連携推進室長、一貫教育部副部長、一貫教育部教育研究・研修センター長、機構所属教員（嘱託講師を除く）、教学部次長、機構長が任命する教職員（以上委員）である。

c 委員会の審議事項等

1. 教学委員会（教学委員会規程第2条）
 - (1) 教学の基本方針に関する事項（カリキュラム改革、毎年度の開講方針および教学総括等）
 - (2) 学部と研究科に共通する教学および教務事項 等
2. センター会議（立命館大学教育開発推進機構規程第11条）
 - (1) 機構およびセンターの活動方針および総括に関する事項
 - (2) センターが行う事業の基本方針に関する事項 等

② 実施状況

a 実施内容

1. 教学実践フォーラムの開催
2. FD懇談会の開催
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
4. 授業アンケートの実施、分析、授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』、紀要『立命館高等教育研究』を通じた実践・授業研究等の共有
7. 教学総括・計画概要の策定、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立

b 実施方法

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・国内外のFDの事例報告、学生の学びの実態調査結果分析、ICT活用事例等の紹介
2. FD懇談会の開催
 - (1) 各学部・研究科・機構のFDに関する取り組みの共有
 - (2) FDに関する国内外の実践の紹介
 - (3) FDに関する要望・意見等の集約を内容にした懇談会
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・教育歴が3年未満の新任教員を対象として、研修会、ガイダンス、オンデマンド講義、ワークショップ、コンサルテーション等を2年間（最長4年間）実施
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・個別授業の授業改善、組織的な教学改善、学生への説明責任を目的として、大学全体で統一した書式により授業アンケートを実施。Webコースツールのアンケート機能も活用する。各授業の中盤にWebコースツールや「コミュニケーション・ペーパー」「インタラクティブシート」等を活用した授業改善に向けた意見交換を実施（希望する教員）
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
 - ・学生の学びと成長調査（アンケート）設計、実施、分析と教学委員会への報告
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を通じた実践の共有および紀要『立命館高等教育研究』の発行を通じた実践レポートや授業研究の共有
7. 教学総括・次年度計画概要、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・「教学総括」や「自己点検・評価報告書」作成の支援

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<平成27年度実績>

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・2回開催、のべ約100名参加
2. FD懇談会の開催
 - ・3回開催（副学部長懇談会として実施）
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・4名が修了（内4名が優秀修了者）。修了式には、学長、学部長を含め約20名が参加
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・授業アンケートは毎セメスター、全授業で実施。アンケート回収率は大学全体で40.4%。Web実施が46.7%となっており、授業時間内で回答する時間を確保することで回答率が上がることがわかっており、各学部において取組みを強化することとしている。
5. 学びと成長調査の実施
 - ・2016年度より全学生を対象に毎年度調査を実施することを決定した。
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を2回発行し、紀要『立命館高等教育研究』を1回発行。
7. 教学総括・次年度計画概要の作成、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・教学総括・次年度計画概要は平成27年度最終の教学委員会にて承認、自己点検・評価報告書はその文書をもとに平成28年度に作成予定である。
 - ・各学部、研究科の要望に応じて教育開発推進機構教員が専門的知見を活かして支援を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 教学実践フォーラムをつうじて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用
2. 先進的な教育実践と学部・研究科固有の組織的なFD活動との連携を促進
3. 教員に期待する教育力量の向上および教育活動の促進
4. アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
5. 実施結果の分析による教育内容の改善
6. 教育を取り巻く動向や課題、実践事例の共有と普及、教育に関する理論や実践の研究と成果の発信
7. 毎年度の開講方針に基づく点検・評価、次年度に向けた改善課題の明確化、自己点検・評価活動をつうじた教育内容や方法の改善促進

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各セメスター終盤に実施（授業アンケート）
- ・各セメスターの5～6週目（Webコースツール、「インタラクティブシート」等によるアンケート）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・各授業および分野等で分析し、①各教員には個別分析結果を返却、②学生には結果全体の報告書をホームページに掲載すると同時に各学部・研究科事務室等の窓口で閲覧できるようにしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現在の医療分野の著しい進展や、超高齢化などの社会、医療環境の変化を考える時、高度医療においてさらに先端的・先導的役割を担う臨床能力、研究能力を備えた人材や、地域医療発展を先導できる人材の育成が必要である。これらの社会の要請に応え、本学は平成26年4月に新たに薬学研究科を設置した。本研究科は、①医療分野における高度な職能を有する専門薬剤師（医療薬学分野）、②地域の医療やセルフメディケーションに貢献できる薬剤師（医療薬学分野）、医療行政などに携わる人材（医療薬学分野・病態生理解析分野）、④次世代の薬学部を担う人材（医療薬学分野・病態生理解析分野）の育成を目的としている。

上記の設置の趣旨・目的を達成すべく、以下の取り組みをおこなった。

1. 入学者確保

アドミッション・ポリシーを明示し、学内推薦入学試験、一般入学試験、社会人入学試験を実施した。入学定員3名に対し、平成27年度には、学内推薦入学試験により2名、社会人入学試験により2名、一般入学試験により1名の計5名の入学者があり、定員充足率は166.7%（対入学定員）となっていた。また、平成28年度には学内推薦入学試験により3名、社会人入学試験により1名、計4名の入学者があり、定員充足率は133.3%（対入学定員）となっている。設置認可後から、卒業研究室のみならず、学部低学年時から大学院進学も視野にいれたキャリア教育を行うことで薬学研究科の周知を図り、積極的な入試広報を行ってきた結果、安定した入学者を確保できていることから、今後も継続して入学者確保に努めていく。

2. オリエンテーション

新入生に対しては、4月にオリエンテーションを実施し、人材育成目的、教育目標、教育課程編成方針を説明した上で、カリキュラム、研究指導等について説明をしている。履修については、在校生も含め、指導教員による履修指導をおこなっている。

3. 社会人対応

設置の趣旨において、社会人への配慮を行うこととしており、受講生の業務の都合等を考慮して基本的な開講時間を夜間においている。平成27年度に引き続き、平成28年度についてもこの方針を継続する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「2016年度自己点検・評価報告書」を平成28年12月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（平成28年12月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(2016年 7月 29日)